

KSKQ バオバブネットワーク通信

VOL 24

2020年の取り組みが
はじまりました！！

クイズ あなたは
1～5の施設名を知っ
ていますか？



1



2



3



4



5



6

※正解は編集後記に

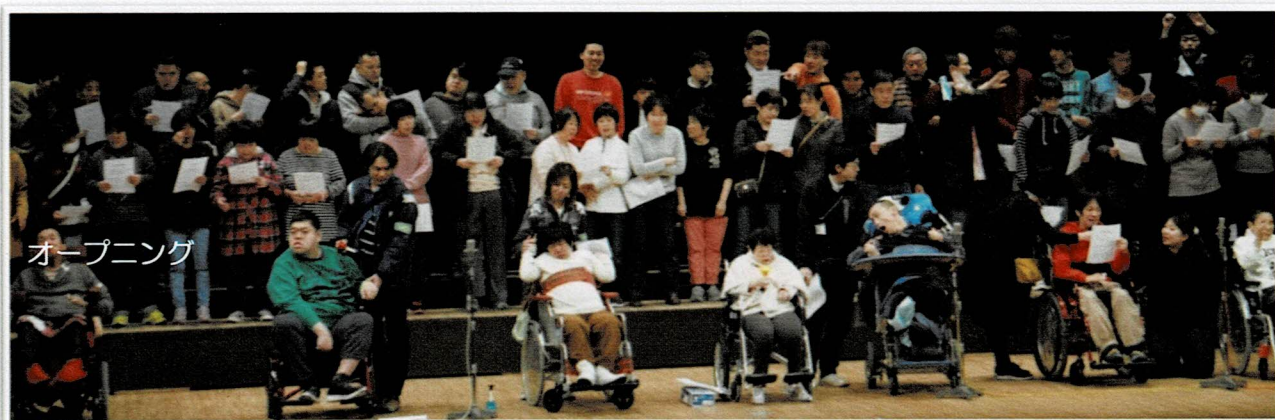
ともに地域で いきいきと生きることの実現を

2020年2月11日、松原市文化会館にて「バオバブ 35 周年記念行事」を開催いたしました。

当日は600名を超える参加があり皆様のご協力により大盛況のうちに終えることが出来ました。

誠にありがとうございました。

第1部では、2016年7月に起こった相模原事件で尊い命を奪われた19人の障がい者追悼のために作られた曲「19の軌跡」を流し、開会前に黙祷を行いました。



オープニング

バオバブ 35 周年記念行事

オープニングを飾ったのは、えるでメンバーと大阪大谷大学「Sign」によるコラボパフォーマンスでした。

開会に相応しく、歌や踊りで会場も盛り上がりました♪



大谷大学「Sign」



開会の挨拶

実行委員会代表 松井育人より開会の挨拶ご来賓を代表して3名の方に、ご祝辞を頂きました。



35年間の感謝の気持ちを込め、4つの団体様と、3つのボランティア代表の方に感謝状と花束をお贈りしました。

花束贈呈はメンバーが行い、緊張しながらも見事、大役を務めました！

感謝状・花束贈呈式



松原高等学校「仲間の会」の学生さんが、バオバブとの繋がりや、地域へのメッセージを伝えてくださいました。



松原高等学校「仲間の会」

第2部では、映画「道草」の上映を行いました。障がいのある方が、地域でどのように暮らしているのか、その人らしさとは何なのかを考える機会となりました。

立見が出るほどの大盛況でした！



バオバブ三五周年記念行事 開催！

1984年に障がい者と共に生きる「松原バオバブの家」が誕生してから三五周年を迎えました。それに伴い、2月11日（火・祝）に松原市文化会館で記念行事が開催されました。当日は大盛況で開会前から会場の席が埋まり、立ち見の人もたくさんいました。

第1部は相模原障害者施設殺傷事件の被害者へ黙祷を捧げた後、えるでメンバーによる『みんなが英雄』の合唱で開幕しました。次にえるでと大阪大谷大学手話クラブがコラボした『切手のないおくりもの』、2曲目に手話クラブによる『学園天国』が披露され、会場は大いに盛り上がりました。その後は主催者・来賓挨拶、来賓紹介、関係者表彰が行われました。表彰ではえるでメンバーが受賞者へ感謝の花束を贈呈しました。大きな声でお礼を伝えるメ

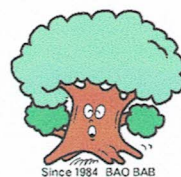
ンバーも居て素敵な授賞式となりました。最後に松原高校「仲間の会」から連帯のメッセージがあり、バオバブの房本理事長の閉会の挨拶で第1部を締めくくりました。

第2部は映画『道草』が上映されました。4名の知的障がい者と彼らを支える家族や介護者・支援団体の日常を追ったドキュメンタリー映画です。知的障がい者の「自立」がテーマとなっており、この映画の中には「自立」による苦悩や戸惑い、そして喜びや笑顔がたくさん描かれていました。

やらせな新聞 4月号より

部落解放同盟大阪府連合会松原支部 発行

えるで



～ 障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと ～

施設紹介

一人ひとりが主役となり、地域でいきいきと生活するために！

社会福祉法人バオバブ福祉会えるでは、1984年に誕生した「『障がい』者と共に生きる松原バオバブの家」を前身として、2002年に設立されました。現在は36名の障がいをもつメンバーが通っています。

えるでは「障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと生きる」の理念を引き継ぎ、地域との交流や人と人との繋がりを大切にしています。また、障がいのある方の個別のニーズにも目を向け、一人ひとりにあったオーダーメイドの支援を提供しています。

職員紹介

長谷川 薫（管理者兼サビ管）

「メンバーさんの笑顔」と「共に地域でいきいきと」を大切に、スタッフ一同力を合わせてがんばります！よろしくお願いします。

石谷 健二（主任）

これまでに様々な事業所で得た経験や、知識をえるでで活かしつつ、新しいこともどんどん吸収・チャレンジして頑張ります！よろしくお願いします！

藤田 美紀（事務員）

メンバーさん達からパワーをもらって、毎日楽しく仕事をさせてもらっています。これからも、よろしくお願いします。

平井 理司

「障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと」を実現出来るよう、頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

大西 りか

第1えるでで働いています。メンバーさんと一緒に毎日元気に楽しく過ごせるよう頑張りたいと思います。

安井 良朋

経験はまだまだですが、メンバーが毎日楽しめる活動や環境を考え、自分自身も楽しんで支援していきたいと思います。よろしくお願いします。

箕輪 瑠奈

いつもメンバーさんから日々笑顔で楽しむ事を教わっています。少しでもメンバーさんの心のよりどころになれるよう頑張ります。(^^)

上田 郁夫

えるでのスタッフでは、一番年長です。老体に鞭打って、日々メンバーさんと向き合っています。よろしくお願いします。

上神 夏生

今年の1月で1年が経ちました。まだまだ分からないところがあると思いますが、よろしくお願いします。

山口 光陽

えるでに来てまだまだ日は浅いのですが、これからもえるでスタッフとして自己研鑽に励んでいきたいです！

家坂 麻由（看護師）

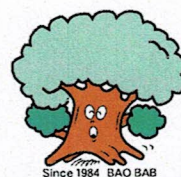
メンバーさんが健康に楽しく過ごせるお手伝いが出来ればと思っています。よろしくお願いします。

調理員

・深治 絹恵
・吉末 彩夏
・西田 広子

職員一同、本年度も宜しくお願い致します。

第2えるで



～ 障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと ～

活動内容

第2えるででは、生産活動として、アルミ缶の回収や、回収したアルミ缶をつぶす作業、回収日をお知らせするチラシを折ったりしています。

その他に入浴の支援や、レクリエーション活動として、パソコン・カラオケ・クッキング・スポーツ・季節や行事に応じた創作活動、ボランティアさんによる河内音頭や太鼓、紙芝居を楽しんでいます。

職員紹介

丸尾 知子(サービス管理責任者)

この春から、第2えるでに戻ってきました。更にパワーアップしたメンバーさん達と共に楽しい事や面白い事をたくさん取り組んでいきたいです。

久保 みどり(主任)

1に笑顔! 2に笑顔!! 3、4も笑顔で! 5も笑顔(〇〇) 私たちに携わって下さる皆様も笑顔にできるように、がんばります。

二村 明子

毎日楽しく、元気に明るくをメンバーさんと一緒に頑張っています。近くに来られた時は、カフェもやっているのでもそびに来て下さい。

田口 美代子(看護師)

一人ひとりのメンバーさんが健康で楽しくより豊かな活動、生活が過ごせる様お役に立てるように頑張ります。

中岡 大士

リサイクル活動の担当をしています。メンバーさんが安全に活動できるように気を配っています。2019年度はアルミ缶の回収量が前年度より2倍以上になりました。ご協力ありがとうございました。

加藤 樹

毎日楽しくメンバーさんと、様々な活動に取り組んでいます。皆さんの身体を癒したいという気持ちで、入浴支援にも取り組んでいます。

西川 結友

2月にえるでから来ました。元気モリモリで第2えるでのメンバーさんと毎日楽しく過ごしています。これからよろしくお願いします。

森川 泰子

メンバーさんと一緒に、日中の活動、リサイクル、アルミ缶つぶしなど、午前中ですが、とても楽しく過ごしています。

箕輪 剛

毎日メンバーさんと一緒に、色々な活動をしています。リサイクルに出かけて、アルミ缶・古紙回収をサポートしています。この活動を通して、メンバーさん一人ひとりと信頼関係を築く事が目標です。

藤本 流輝也

3月に入職した新人です。メンバーさん達と関わって分かった事は、意思疎通が出来ると嬉しくなります。もっとメンバーさん達の事を理解し、成長していきたいです。

職員一同、本年度も宜しくお願い致します。

法人本部コーナー

3月27日（金）、85回社会福祉法人バオバブ福祉会理事会が開催されました。このコーナーでは、論議された内容を紹介し、2019年の取り組みの総括と2020年度の課題を考えていきたいと思います。また、相模原事件裁判への法人見解（アピール）も掲載しています。

第85回バオバブ福祉会理事会で 2019年度補正予算と20年度予算 が承認されました！！

第85回バオバブ福祉会理事会の案件は、つぎの通りでした。

- 1, 2019年度補正予算及びホーム「東風」建設に関して
- 2, 松原市福祉指導課の法人監査結果並びに改善報告書について
- 3, バオバブ福祉会定款・細則改訂について
- 4, バオバブ35周年記念事業をふりかえって
- 5, 2019年事業報告と2020年バオバブ福祉会予算（案）について
その他：給食費の改定と職員へ

1, の補正予算に関して

出席理事・監事より人件費支出の補正額の大きさ（201,545,000円→218,834,000円）について、財源と根拠についての質問がありました。

財源については、ホーム「東風」の開所による収入増があり、今後とも増収傾向が続くこと。12月に実施した若手の給与改善につながる特別昇給が影響との事務局からの説明に、全出席が納得され補正予算が承認されました。

2, 3, について（省略）

4, のバオバブ35周年記念事業をふりかえって

事務局から、総括文書の提起を受け、率直な意見交換がなされました。

総括文章

2月11日、参加者が600名を超え、バオバブ35周年記念集会は大成功に終わりました。

バオバブ福祉会の前身である「松原バオバブの家」は障害のある人もない人も地域で共に生きることとにこだわり活動してきました。保育所、小学校、中学校、そして高校と共に学んできました。高校卒業後、生活の場としての「松原バオバブの家」を障害のある人の親が中心に立ち上げた時も、多くの同級生の力添えもありました。設立当初から、「家」は多くの人が集う場所でした。また、障害の種別や支援区分によって区別することなく、知的障害の人、車椅子の人、視覚障害の人などみんな一緒に活動してきました。

社会福祉法人となった後も、「松原バオバブの家」の理念をひきつぎ、「生まれた松原で、自分らしく生きる！！」のために様々な事業活動を展開してきました。

生活介護事業所「えるで」に加えて、ホーム「空」・「ひとつ星」の開所、「第2えるで」の開所、そして、2019年12月に、ホーム「東風」と3つの事業所（ヘルパーST、いこな、後援会事務所）の統合を成し遂げ、法人拠点を発祥の地である南新町にもどし、地域総合支援センター的機能を有することができ、メンバーおよび利用者が100名を超える法人として発展してきました。

更池からも「つるかめ会」や「識字」を始め、たくさんの人が参加してくれました。南時男さんが感謝の花束を渡してくれた時に「ありがとう」と言ってくれたのがはっきり伝わって 嬉しかったです。

更池からバオバブが始まって、地域に見守られながら子どもを育てられて良かったと改めて感動しました。子ども会があって、地域の学校があって仲間や先生がいてバオバブがあって地域に根を張ってこられました。痛みの分かり合える人のネットワークが目に見える形で記念行事として開催されたことを嬉しく思います。

この行事に遠いところから新幹線で駆けつけてくれた人もいて、懐かしい人たちに再会することもできました。あちこちで「久しぶり」の声がして、懐かしそうに話をする人たちがたくさんいました。この行事はそんな素敵な再会の場にもなりました。悲しい事件が起き、裁判のニュースを聞く中、松原でこれだけたくさんの人が集まって「障がいのある人もない人も共に地域で自由に暮らしていくため」の行事を開くことができた—これは私たちの松原の誇りです。＜やらせな新聞（部落解放同盟松原支部発行3月号より、転載＞

周年行事の成功は、「松原」という地域にこだわり「区別することなく・・・みんな一緒に活動する。」との伝統の下、市内在住で他の事業所で受け入れ困難になったメンバーや病院を退院後地域生活に移行をめざしてきたメンバーを可能な限り受け入れてきた証だと言えます。これからも可能な限り、積極的に受け入れていける法人でありたいと考えます。

今後のバオバブ福祉会の発展のためには、メンバーと職員が、基本理念の意味を理解し

- ①地域を大切にすること、とりわけ、支部・識字、つるかめ会との関係を大切にすること
- ②意識的に、小・中・高等学校との連携行事を組織し、小・中・高生を次世代の支援者に育成すること。（バオバブに来たら楽しかった！！また、メンバーに会いたい！）
- ③市内中学校の「職場体験」・松原高校・平野高校の「福祉体験授業」を積極的に引き受けること。
- ④生活介護事業所に、積極的にボランティアを組織し、周年行事での盛りあがった「力」を発展させること。

を今後も継続していく必要があり、経験の浅い職員に対しては、35周年で示された「**理念の実現**」をベテラン職員から生きた言葉で伝える必要があります。

そして、バオバブ福祉会が「バオバブ」らしく存続し成長し、「障がいのある人もない人も共に地域で自由に暮らしていく」地域を創ることに全力を注ぎ、その取り組み自体を「私たちの誇りです。」といえる職員に成長していきたいと思えます。

総括文章が承認され、その後自由な意見交換がされました。

出席者全員が、素晴らしい行事になったこと、特にメンバーのあたりまえの姿が伝える事出来たこと、とりわけ表彰時のメンバーの行動が自然な感じが伝わったこと。等の感想が出されました。

映画「道草」についても、会場の参加者も非常に評価が高かったも伝えられました。

一方で、グループホームが制度化されてきた「大阪」において、障がい者の自己決定権を保障する24時間ペルパーがついた「一人暮らし」が可能かどうか！！職員とともに、真剣に考えていきたいとの感想も出ました。

5. の新年度予算について

コロナ感染症の影響もあり、ヘルパーST等の収入源も予想されますが、危機を前向きに捉え、定期昇給の実施し、積極的に事業展開していこうと言う趣旨で原案通り承認されました。

議事終了後、相模原事件判決の評価を議論し、下記の緊急アピールを確認しました。

緊急アピール 私たちは相模原事件を忘れません！

行事の開始に当たり、「19の軌跡」のメロディーが流れる中、参加者全員で黙とうをしました。参加者の心に「相模原事件」の「凄惨な事実」がよみがえったことでしょう。

今年1月8日から始まった「津久井やまゆり園」障害者無差別殺傷事件の裁判において、植松聖被告に対して死刑判決が下されました。

しかし、全16回に及ぶ公判において被害者の生きてきた証も表明されておらず、事件が起こったその背景や、そもそも入所施設の在り方などの点において、審議が明らかに不十分で何も解明されていません。植松聖被告の責任能力の有無が争点になっており、判決文においても責任能力の有無についてのみ言及されました。

また、量刑判断の理由として「量刑上最も重視すべきなのは殺人罪、とりわけ19名もの人命が奪われたという結果が他の事例と比較できないほど甚だしく重大であることである」（判決文より引用）と述べており、殺傷人数の多さが死刑判決の理由としています。

判決文の中に植松聖被告の反省のなさやヘイト発言には踏み込んでいません。社会の中にある優生思想とこの事件の関係について問題意識が感じられない判決文だったと言わざるを得ません。能力主義と優生思想の関連に触れることなく、社会に蔓延する優生思想の危険性について全く触れられなかったことは、この事件の波及性を社会に訴える機会を逸した多くの課題を残す裁判となりました。

私たちは、これからも障害のある人が一人の人間として尊重され、名前を隠されるようなことがないような社会の実現に向け、命の重さや尊さ、不要な命などなく、「人間の存在そのものに価値がある。」ことを訴え続け、二度と同じ過ちを繰り返させないことを強く訴え続けていきます。

これが新年度予算です

令和2年度 予算 資金収支予算内訳書	合計 (単位:千円)	【えるで】拠点				【第2えるで】拠点		【ホーム空】拠点					【ホーム・ステーション】拠点	
		本部	生活困窮者に対する相談事業	生活介護	生活介護 日中一時支援	ホーム空 グループホーム	ショートステイ ショートステイ	ホーム東風 グループホーム	ホームひとつ星 グループホーム	いな	特定福祉支援	住宅介護 居宅訪問介護 同行介護 行動援護 移動支援		
障害福祉サービス等事業収入	313,911	0	0	89,882	62,716	67,960	234	16,715	20,268	12,782		43,560		
就労支援事業収入	9,203	0	0	7,313	1,890	0	0	0	0	0	0	0		
借入金利息補助金収入	23	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0		
経常経費寄附金収入	1,280	0	0	0	0	0	0	480	780	0	0	0		
受取利息配当金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他の収入	4,820	0	0	1,247	860	804	0	1,632	144	133	0	0		
人件費支出	234,743	150	0	58,784	51,140	43,189	0	6,445	18,301	13,565		43,159		
事業費支出	25,605	0	100	10,870	4,927	5,801	17	1,032	2,519	9		330		
事務費支出	24,785	1,286	0	6,825	6,572	1,492	0	591	5,228	1,111		1,880		
就労支援事業支出	9,203	0	0	7,313	1,890	0	0	0	0	0	0	0		
支払利息支出	1,818	0	0	247	0	824	0	747	0	0	0	0		
その他の支出	2,710	0	0	1,032	862	576	0	132	108	0	0	0		
【事業活動資金収支差額】	30,353	-1,436	-100	13,384	89	16,072	217	7,860	-2,868	-1,770		-1,609		
施設整備等補助金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
施設整備等寄附金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
設備資金借入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
固定資産売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
設備資金借入金元金償還支出	9,489	0	0	2,745	0	3,432	0	3,312	0	0	0	0		
固定資産取得支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ファイナンス・リース債務の返済支出	1,512	0	0	1,020	0	156	0	0	0	336		0		
【施設整備等資金収支差額】	-11,201	0	0	-2,745	0	-2,516	0	-3,312	0	336		0		
積立資産取崩収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
長期運営資金借入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他の活動による収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
＜拠点区分間繰入金収入＞	1,236	0	0	0	408	324	0	38	132	144		192		
＜サービス区分間繰入金収入＞	33,539	845	100	0	0	0	0	0	2,035	0		30,559		
積立資産支出	4,656	0	0	420	408	3,324	0	36	132	144		192		
その他の活動による支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
＜拠点区分間繰入金支出＞	1,236	0	0	1,236	0	0	0	0	0	0	0	0		
＜サービス区分間繰入金支出＞	33,539	100	0	845	0	2,035	0	0	0	0	0	30,559		
【その他の活動資金収支差額】	-4,656	745	100	-2,236	0	-4,039	0	0	2,035	0		0		
【当期資金収支差額合計】	14,886	-391	0	7,129	89	8,249	217	4,566	-973	-2,106		-1,609		
＜【前期末支払資金繰高】＞	88,988	691	0	11,248	19,767	22,780	20	15	929	2,860		10,577		
＜【当期末支払資金繰高】合計＞	83,684	0	0	18,377	19,856	31,029	237	4,583	0	754		8,868		

後援会コーナー

昨年度も、後援会への入会やボランティア活動にご支援・ご協力いただき誠にありがとうございます。35周年記念行事にも多くの方々に参加いただき重ねてお礼申し上げます。

後援会の入会は、個人が358名、団体が8件でした。昨年度の決算報告と活動報告、並びに新年度の後援会入会案内とボランティア募集を掲載します。

【決算報告】

○収入

・前年度繰越金	545,826円
・会費	1,154,000円
・行事売上	474,778円
合計	2,174,604円

○支出1

・振込み手数料等	13,570円
・通信費	52,971円
・募金等	90,680円
・事務費	5,116円
・バオバブと友だちのWA	17,308円
・市民まつり	47,372円

○支出2

・バオバブとみんなのWA2019	511,788円
・バオバブとみんなのWA	93,293円
・春の地域活動	1,650円
・秋の地域活動	142,945円
・第2えるで活動費	9,458円
・35周年行事関係	720,160円
・後援会事務所賃貸料	160,000円
合計	1,866,311円

○収入－支出（差引残高）

2,174,604円－1,866,311円＝308,293円

残額308,293円を次年度に繰り越します

【活動報告・・・ボランティアの関わり】

1. 日常活動

第1えるで（田井城）では、月1回、リズム遊びやハンドベルなどの楽器を使った音楽レクレーションと紙芝居をしています。第2えるで（南新町）では、リサイクルやアルミ缶などメンバーさんの行う活動の支援をしています。また、毎月曜日の紙芝居や木曜日の河内音頭、昼の休憩時間に行っている絵本の読み聞かせやパソコン、日記、数の学習、紙工作などメンバーさんのニーズとボランティアさんの趣味や特技を生かし、メンバーさんと楽しく活動しています。



2. 主な行事活動

（1）バオバブと友だちのWA

7月に行った近隣の小学校の子どもたちとの交流では、100名を超える子どもたちとメンバーさんがスタッフやボランティアさんと一緒に、スーパーボールすくいやミルクせんべい、たこ焼きづくりなどを楽しみました。

（2）バオバブとみんなのWA

9月に開催したバオバブとみんなのWA。会場となったゆめニティーまつばら1階催事場には、たくさんのお客様にお越しいただきました。地域の子どもたちもたくさん集まって、当てものコーナーや、レザークラフトのキーホルダーづくり、さをり織り体験などをして楽しみました。ボランティアさんと、参加していただいた大阪大谷大学の学生さんたちは、各班に分かれたメンバーさんと同じ班に入り、昼食づくりやゆめニティーの買い物などの支援をしました。

（3）地域活動

10月から11月にかけての松原市民まつり、松原高校祭、各中学校区フェスタに延べ81名がボランティアとして出店の応援に行きました。いか焼きをはじめ、プラ版づくりやレザークラフト体験、えるで製品販売をして、地域の方々に楽しんでいただきました。メンバーさんは、土曜日の日中一時支援事業で参加しました。

(4) 35周年記念行事

2月11日に開催されました「バオバブ35周年記念行事」は、皆さんのお力添えで大盛況のうちに終わることができました。ありがとうございました。立ち見が出るほどの600名を超える方々に参加いただき、35年が経過したバオバブの歴史と、これからのバオバブへのエールを感じさせていただいた一日となりました。

後援会からは、約200名の参加がありました。これらの力をバネとして、今後の後援会活動の更なる充実と会員拡大に向けて一層頑張っていかなければならないと思います。

3. 日中一時支援

昨年度は、日常活動ほど協力できませんでしたので、「土曜日の10時から14時までならボランティア、行けますよ。」という方、大募集します。ぜひ、よろしくお願いします。

4. 広報活動

昨年度は、3回の「バオバブねっとワーク通信」の中に、後援会ニュースを掲載し、会員の皆様に情報を提供してきました。今年度も、内容の一層充実したものを届けたいと思います。

◇お願い！！

後援会活動は、皆様方の温かいご支援・ご協力で成り立っております。ぜひ新年度(2020年度)の後援会への入会をお願いします。

年会費は個人3,000円、団体10,000円です。同封の振込用紙をお使いください。

(振込用紙をお使いになる場合は、できるだけ、ATMでお願いします。)

◇本年度も、様々な活動をしていきます。

ボランティアさん、大募集！！

次のページの申込用紙で申し込みを



◎日常活動 (月曜日～金曜日)

ボランティアさん自身の趣味や特技を活かしながら、メンバーさんと楽しく活動していきます。(昨年度は、常時10名のボランティアが支援)

活動時間帯は、①9:30～11:30 ②11:30～13:30 ③13:30～16:00で、いつでもOKです。ご連絡ください。

- ・ 9:30～11:30・・・朝の会、午前の活動(リサイクル、アルミ缶)
- ・ 11:40～12:30・・・昼食時間(昼食介助、昼食後の歯ブラシ等)
- ・ 12:30～13:30・・・休憩(絵本の読み聞かせ、パソコン、数の学習、色紙工作、日記などなど・・・)
- ・ 13:30～15:00・・・午後の活動(紙芝居、クッキング、カラオケ、河内音頭、創作・スポーツ)
- ・ 15:00～16:00・・・掃除、終わりの会

◎行事活動

バオバブとみんなのWAをはじめ、7月にあるバオバブと友だちのWA(小学校児童との交流)、10月～11月の市民まつりや松高祭、中学校フェスタ等の地域活動にボランティアとして出店の応援をします。

◎日中一時支援

毎月2回の土曜日の10時～14時までの活動で、クッキングや季節に合った工作など、様々な活動にボランティアとして支援していきます。

ボランティア活動 申し込みシート

※なまえ	※生年月日 年 月 日
※住 所 〒 —	
自宅／TEL	
携帯／TEL	
携帯アドレス	
PCアドレス	
※活動希望 （希望に○を） ☐ 日常活動（月曜日～金曜日） ☐ 日中一時支援（隔週土曜日） ☐ 行事活動	
※希望時間帯 （年月日 時間）	
活動の動機（なぜ、ボランティア活動をやってみようと思ったか）	
趣味、特技	
ボランティア活動の経験の有無 ある（ ） ない	
不安や質問があれば、お気軽にお書きください。	

※は、ボランティア活動保険に加入するために必ずご記入ください。

Fax 0 7 2 - 3 3 2 - 0 9 9 5

編集後記

- バオバブネットワーク通信VOL24をお届けします。
- 2月11日、松原市の文化会館が超満員になりました。
当初は目標を400名とし、会場の8割程度が集まればとの思いもありました。しかし、本番を目前にした参加者はがきは600名を超えそうだと報告!! 記念品は600しか用意していなかったため、追加できる自主製品は追加して本番を迎えました。
当日は事務局の予想を上回り、長蛇の列、急遽受付を通さず会場への案内をする状況でした。
- 35周年行事において、私たちがめざす地域で一生を終えること＝「終いの住みか」としての「グループホーム」の在り方を全市民的に考える契機になったと思います。
- 周年行事準備に忙殺されていた法人関係者にとって、コロナ感染の広がりスピードは驚異的な早さでした。あっという間に、感染者が拡大し、様々な行事が中止・延期になり、メンバーが活用してきた公共施設が休業となりました。メンバーの外出場所がへり、ヘルパーステーションの業務を半減しなければならない事態に陥っています。
2～3月期の法人の収支に大きく影響を与えるだけでなく、2020年行事そのものが全く白紙の状況で、新年度を迎えました。
今後、感染の影響を見定めながら、精一杯メンバーを中心に全職員・全施設一致して乗り切っていきたいと考えています。
- 4月1日、相模原事件の被告植松聖の死刑判決が確定しました。
16回に及ぶ公判において被害者の生きてきた証も表明されておらず、事件が起こったその背景や、そもそも入所施設の在り方などの点において、審議が明らかに不十分で何も解明されていません。植松聖被告の責任能力の有無が争点になっており、判決文においても責任能力の有無についてのみ言及されました。
そして、死刑判決確定により、社会の中にある優生思想とこの事件の関係について全く司法の場で議論できなくなりました。
その結果、この事件の波及性を社会に訴える機会を逸した多くの課題を残すこととなりました。
- 私たちは、これからも障害のある人が一人の人間として尊重され、名前を隠されるようなことがないような社会の実現に向け、命の重さや尊さ、不要な命などなく、「人間の存在そのものに価値がある。」ことを訴え続け、二度と同じ過ちを繰り返させないことを強く訴え続けていきます。
- 2020年度は激変の予感ともに幕を開けました。今一層、更なるご支援ご協力をお願いいたします。

<表紙の答え: 1 = ホーム「ひとつ星」 2 = ホーム「空」 3 = ホーム「東風」

4 = 「いこな」「ヘルパー事務所」 5 = 「えるで」 6 = 「第2えるで」

(文責 F)

KSKQ (バオバブネットワーク通信VOL24) 2020年 4月 7日発行

定価 100円

編集人 社会福祉法人バオバブ福祉会 編集責任者 房本 晃
連絡先 〒580-0044 松原市田井城6丁目328番地2
でんわ072-332-0987 FAX072-331-8200
発行人 関西障害者定期刊行物協会
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階
でんわ&FAX06-6763-3338

一九九一年九月三日

第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行